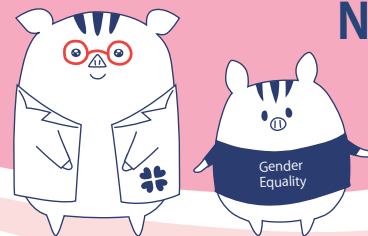


ジェンダー平等 推進部門 便り



2023年3月31日発行

神戸大学 インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンター ジェンダー平等推進部門 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 Tel: 078-803-5471 /5017

神戸大学 ICHC センター ジェンダー平等推進部門の ワークライフバランス 支援

インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンター ジェンダー平等推進部門では、神戸大学全構成員のワークライフバランスをサポートするため、以下様々な取組を実施しています。新年度も引き続き取組を継続していきます。

新たに、これらの支援情報をまとめたリーフレットを作成しました。このリーフレットは後日当部門 HP からダウンロードが出来ます。是非ご活用下さい。



支 援 の 概 要

01 ベビーシッター派遣事業割引券

小学校3年生以下の子どもがいる教職員を対象に、ベビーシッターをご利用の際に使用できる電子クーポンを配布します。

02 ベビーシッター派遣料金の一部補助サービス

未就学児を養育する教職員を対象に、ご自宅でのベビーシッターご利用の際の利用料金の一部を補助します。勤務を命じられている場合は利用者負担はありません。

03 一時預かり保育

六甲台地区と名谷地区の2施設で、一時保育を実施しています。小学校6年生以下の子どもがいる教職員が対象です。

04 子育て中・介護中の研究者支援

子育て中・介護中の教員に対し、研究支援員を配置し、教員の研究・教育を支援する制度です。対象者：小学校6年生以下の子どもがいる常勤教員（子育て）・家族に要介護者がいる常勤教員（介護）

05 育児休業に伴う代替教員制度

常勤教員の育児休業期間中、代替教員として常勤教員を雇用することができます。

06 常勤パート研究職制度（子育て・介護）

育児期の男女研究者を対象に、常勤のまま、職務を削減し、給与もそれに連動される制度です。未就学児を養育する常勤教員が対象です。

ジェンダー平等推進部門協力教員のご紹介

※五十音順

石田 圭子 国際文化学研究科 准教授



ジェンダー問題について私が考えること

私が日頃からジェンダーを意識して取り組んでいることのひとつが、男子学生であれ女子学生であれ、「〇〇さん」と呼ぶようにすることだ。「君」より「さん」の方がより丁寧なのだから、こうすることで別に不平等が平等になるというわけではない。でもこういう小さなことがけっこう大切なように思う。先日授業で、男子学生たちに「～さん」という呼ばれることに違和感を覚えるか聞いてみた。そうすると、男子校出身の一名のみが「若干感じる」という返事だった。この違和感の正体はいったい何なのだろう。勝手に推測するのだが、それは自分がこれまでのように男子として扱われていないと感じることから生じるかすかな違和感なのではないだろうか。

私はこうした日常の中のちょっとした違和感は大事だろうと思っている。日常生活の中に溶け込んだジェンダー不平等は、何気ない言葉使いや態度、そぶりの中に自然化している。先日病院に行ったときに気づいたことは、病院の受付で看護師さんに対して丁寧語を使わないのは圧倒的に年配男性だということだ。当人にとってはそれがおそらく当たり前で自然な態度なのだろう。私自身もそんなことはあまりにも日常的な光景なので、これまでさして気に留めることはなかった。それが当たり前でないことに気づくこと、まずはそこからなのではないかと思う。

糟谷 祐介 経済学研究科 講師

私がこころがけているワークライフバランス

私たち研究者は得てして研究を趣味（ライフ）の延長で捉えておりますので、客観的にはワーク偏重に見えても主観的にはライフ偏重な生活を送っているように思えます。「ライフ偏重、大いに結構じゃないか」と結論を下したくなりますが、内閣府によればワークライフバランスの要諦は仕事を充実させつつ「子育て・介護の時間や、家庭、地域、自己啓発等にかかる個人の時間を持てる健康で豊かな生活」を送ることであります（内閣府「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」）。「誰もが自らの意欲と能力を持って様々な働き方や生き方に挑戦」（同上）する様子は、研究室に立てこもっていきなり研究に勤しむ私たち研究者のイメージとは少しギャップがあるようです。政府・社会が発するメッセージにどう反応するかは各人の裁量に任されており、私自身は「様々な働き方や生き方に挑戦」するような令和的社会人像を特段意識せず、日頃から教育・運営などの義務を果たしつつ好きなように研究・息抜きをして私自身のワークライフバランスを保っています。他方で、私自身のバランスと令和の世が求めるバランスが異なり得ることに常に注意を払うことは、物事がうまく運ばない時の原因を探る時に、或いは一般常識や同調圧力とうまく付き合う上で重要なことだと感じています。



ジェンダー平等に関するユニツインネットワーク へ参加します

2023 年 1 月に神戸大学が「UNITWIN NETWORK ON GENDER EQUALITY」（ジェンダー平等に関するユニツインネットワーク）のパートナーに加わることになりました。今までジェンダーに関するユネスコチェアのネットワークに参加してきましたが、同ネットワークは UNITWIN というユネスコ直轄のものに昇格されました。アルゼンチンの Facultad Latinoamericana de Ciencias Sociales Sede Argentina を本部とし、10 のユネスコチェアで構成される UNITWIN ネットワークに今後も神戸大学ユネスコチェアは主に災害とジェンダーについて助言し、パートナーと協議する予定です。

今後連携が期待される機関

- ◆ウクライナに新しく「ウクライナ国立チャイコフスキー記念音楽学院ユネスコチェア～平和のための音楽、教育、科学」（Ukraine National Tchaikovsky Academy of Music UNESCO Chair on Music, Education and Science for Peace）の設立に伴い、協力の依頼を受けました。神戸大学ユネスコチェアとしては、災害、ジェンダー、脆弱性、ウェルビーイングの観点から協力できる活動があればぜひ行いたいと思っています。
- ◆パリのアメリカン大学（American University in Paris）より「AI の倫理に関するユネスコチェア」（UNESCO Chair in the Ethics of Artificial Intelligence）の設立申請に伴い、ユネスコ本部の助言を受けて、神戸大学ユネスコチェアにその申請支持の依頼がありました。極めて重要なテーマであることを認識し、神戸大学ユネスコチェアとして支持を表明しました。新しいユネスコチェアが承認されましたら、災害、ジェンダー、脆弱性、ウェルビーイングの観点から助言ができれば、と思っています。



ユネスコチェア
ジェンダー、脆弱性、ウェルビーイングを
中心に据えた減災対策

神戸大学

開 催 報 告

ロールモデル交流会を開催しました

博士課程の学生を含む若手女性研究者の裾野拡大の一環として、「2022 年度第 1 回 ロールモデル交流会 女性研究者と話そう～自然科学系編～一本音で語る研究者としてキャリアをつみあげていくには～」をハイブリッド形式（オンライン・対面併用）で 2023 年 1 月 18 日（15：00-17：00）に開催した。

まず、研究者というキャリアパスを考える機会となることを目指して、本学の自然科学系女性教員 2 名（教授、助教）に、キャリアに対する考え方、職場や家族、友人、研究仲間との関係作りやその変遷、子育てと研究の両立や今後の研究者生活などに関してこれまでの経験を踏まえたご講演の後、理事からのコメントを頂いた。その後、参加者からの質疑応答を行い、参加者相互の交流を行った。

今後、自然科学系以外の分野も含めて継続してロールモデル交流会を実施する予定である。



開催報告

神大クィア映画上映会

水槽の中の声に耳を傾けて



2023年2月20日、神戸大学のV.Schoolにて、17人の観客が水中で息を止めているかのようにスクリーンに注目しました。スクリーンには、故郷に戻ったトランスジェンダーのひかりが、トランスする前の自分を知る高校時代の友人たちと初めて対面する物語が展開していました。自らの過去を断ち切ろうとするひかりの物語は、東海林毅監督による作品『片袖の魚』の主題です。

神戸大学ジェンダー平等推進部門の後援のもとで、クィア（＝LGBTQ+）文化を推進する学生団体「神大クィア映画上映会」は、第2回目となる上映会を開催し、現代日本のクィア映画監督として知られる東海林毅さんをお招きしました。東海林監督は、神大クィア映画上映会の招待を快諾し、2021年の短編映画『片袖の魚』を上映した後、「なぜ『トランス役はトランス当事者の俳優に』なのか」について講演を行いました。

表象にまつわる議論の中で、（表象の作り手としてもしくは表象の表現の担い手として）いかに当事者に優先的かつ積極的に参加してもらうかを考える際、当事者が置かれた社会的機会と労働機会の現状を考慮する必要があります。しか

し、賛否はともかく、当事者がこれまで以上に自らのストーリーを管理・配信できるようになったことは確かです。そして、戦いの鎧（エレガントな赤いドレス）を着て夕暮れの中を歩くひかりのように、社会的マイノリティの人びとは、過去にかれらを苦しめた人たちや社会構造に立ち向かい、自分たちが入れられた孤独な水槽から解放される機会が訪れています。神大クィア映画上映の実行委員会は、クィア文化を促進するために、より良いイベントを定期的に提供するために活動しています。これからもエキサイティングなニュースにご期待ください。（神大クィア映画上映会）

後援：ジェンダー平等推進部門



＝お・知・ら・せ＝

2023年度国際共同研究者養成プログラムの公募について

2022年度までは、「国際共同研究PI養成プログラム」と年齢制限のある「国際共同若手研究者養成プログラム」に分けて募集を行っていましたが、2023度からは応募の年齢制限を廃止し「国際共同研究者養成プログラム」として公募させていただきます。公募を開始しましたら各部局へ通知いたします。奮って応募いただきますようお願い致します。

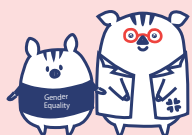
多様な性・ジェンダーに関する相談窓口のご案内

ジェンダー平等推進部門では、神戸大学構成員の皆様の多様な性・ジェンダーに関する様々な相談に対応しています。この度、相談受付窓口を部門HPトップにオープンいたしました。詳しくは、こちらのQRコードへ。



多様な性・ジェンダーに関する研修動画を作成しました

神戸大学 ICHC センター 多様な性・ジェンダーに関する構成員向け研修作業部会は、多様な性・ジェンダーに関する研修知識と理解編～多様な構成員が活躍できる環境づくりをめざして～を制作いたしました。今後皆様にご視聴頂ける機会を設けていきます。詳細が決定次第、部門HP等で周知致します。



ジェンダー平等推進部門にご意見・ご要望がありましたら、ホームページのお問い合わせからご意見箱を使ってお送りください。みなさまからのご意見・ご要望お待ちしております。

ジェンダー平等推進部門HP <http://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/>